

高崎市文化事業広報誌

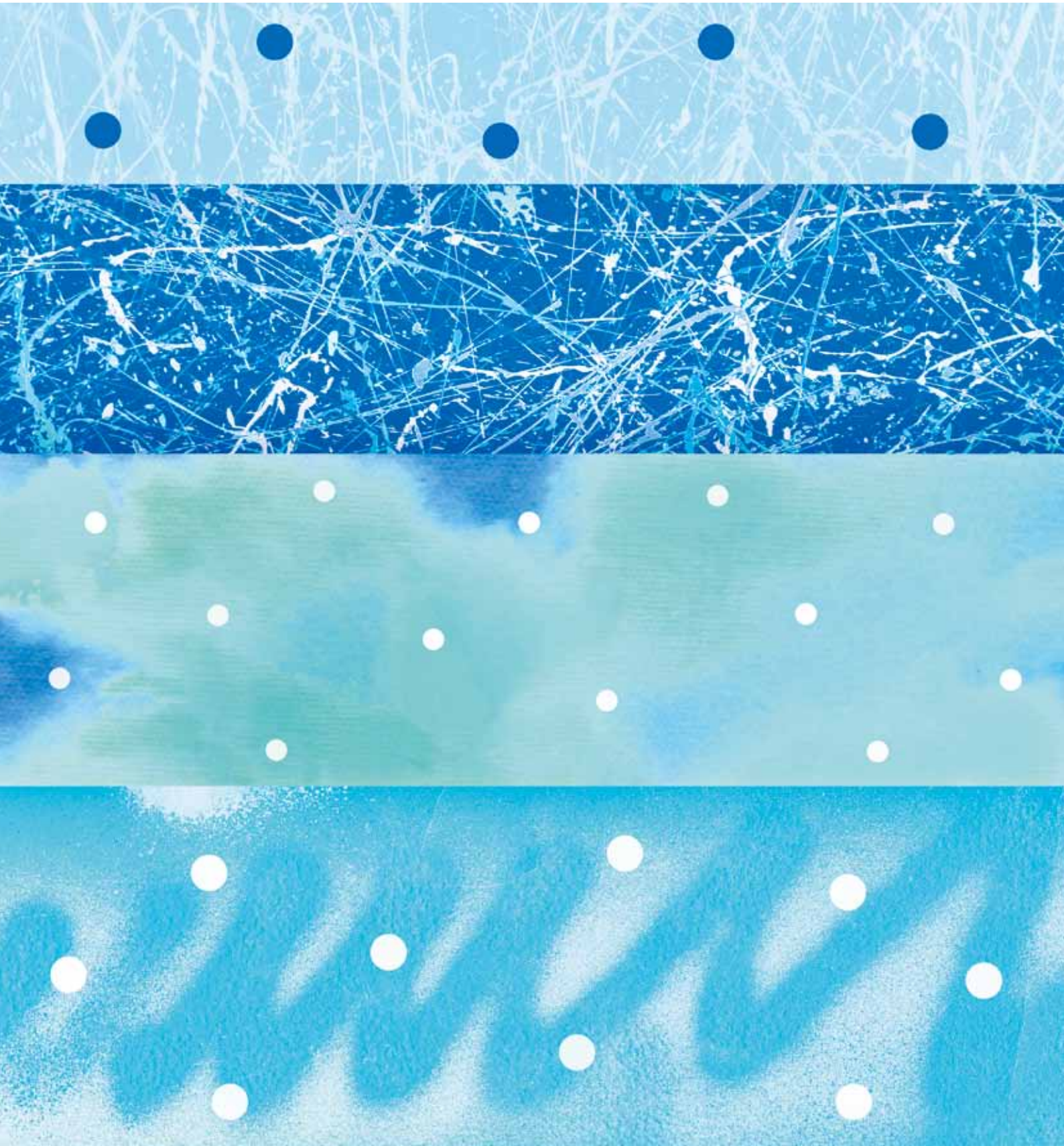
# 劇場都市

vol **03**

2017 WINTER  
Takasaki Cultural Event  
Information Magazine  
GEKIJOTOSHI

公益財団法人  
**高崎財団**  
The Takasaki Foundation

都市は劇場であり、劇場は都市である





都市は劇場であり、劇場は都市である

都市は、人生の喜怒哀楽が繰り広げられる舞台であり、都市そのものが劇場である  
そこで生まれる芸術文化は感動や創造性につながり、都市そのものを作っていく——  
「劇場都市」は、そこで生み出される文化芸術活動とそのドラマを紹介していきます

## Contents

- 2 Interview  
世界的ジャズピアニスト  
**山中 千尋** Yamanaka Chihiro
- 6 movement  
劇場都市 高崎の物語2  
七十年前、新しい高崎をめざした  
高崎観光協会の創設
- 8 アートプロジェクト高崎2017  
現代アートの表現の場、  
創造の場としての都市  
～アトリエは街並みに、都市は美術館になる瞬間～  
【鼎談】鬼頭 健吾 × 松岡 洋太 × 新保 義暁
- 12 高崎財団 公演情報  
～冬のコンサート情報～

裏表紙 **MEET THE GSO**  
群馬交響楽団 楽団員インタビュー #03  
コントラバス首席奏者 **市川 哲郎**

◆表紙:「Untitled」 by JON JON GREEN・松岡洋太  
1978年高崎市生まれ。多摩美術大学美術学部卒業。2004年よりライブペインティングを軸に制作活動を開始。



**高崎じまん**  
TAKASAKI JIMAN

高崎オーパ 1F 駅側  
OPEN 8:00 - 21:00

「おいしいものだけ」集めました。  
**「高崎」を食べつくそう!**





思い切って表現したいとき  
とにかくやってみること  
それが大事かな



**やまなか・ちひろ**  
群馬県出身、NY在住の世界的ジャズ・ピアニスト。リリースされたアルバムすべて、国内のあらゆるJAZZチャートで1位を獲得。米メジャー・レーベルのデッカ・レコードとも契約を果たし、全米デビュー。第23回日本ゴールドディスク大賞、スイングジャーナル誌ジャズディスク大賞など多数受賞。

## Interview

JAZZ PIANIST

世界的ジャズピアニスト

# 山中 *Yamanaka Chihiro* 千尋

五感を研ぎ澄まし、  
興味あるものすべてを吸収し、  
音楽に解放する—

ガーシュウインの名曲『ラブソディ・イン・ブルー』を群響と共演

「もう帰ってこなくていいわよ。楽譜もみな捨てちゃうから」  
小学三年の山中千尋に母が言った。「あまり私が練習しないので母にそう言われて：ちよっぴりへこんだときに書いた曲。だから、この曲を弾くと郷里の景色が重なるのです」と、懐かしむように、人気ナンバー「S o L o n g」の制作秘話を明かす。  
全米デビューしたときの大事な一曲でもあり、この曲を演奏すると「ほっとする」と言われる。ちよっぴり物憂げながらも「やっぱりピアノが好き。楽しくてしかたない」という少女の気持ちが伝わってくるポップな楽曲だ。  
「四分音符だけのシンプルな曲に和音をちよっぴりつけただけ」というが「自分を表現せずにはいられない」ジャズピアニスト、山中千尋の原点がある。



ダイナミズムと超絶技巧、ジャズの伝統と斬新なアレンジを併せ持つ山中千尋

### ジャズとの出逢い

現在、ニューヨークを拠点に世界でライブ活動を行いながら一年の八ヶ月ほどを海外で過ごす。米バークリー音楽大学、日本では桐朋学園大学で作曲理論の教鞭も執る。どちらも母校だ。そんな山中のジャズとの出逢いは高校時代にさかのぼる。

「クラシックはもちろんすごく好きです。でも、自分を表現する」と考えたとき、自分とピアノの間に作曲家がいるのかもしれない。ジャズを聴いたとき、これなら直接自分を表現できると思ったのです。ピアノを上手に弾く人はたくさんいる。でも「自分の感覚をどうやって音楽的に表現するか」ということの方に常に興味があった。そんな時、通いつめていたジャズ喫茶で流れた米国のジャズピアニスト、セロニアス・モンクの曲に衝撃を受けた。「流暢で技巧的というのは違って、とつとつとしていびつ。でもスイングしているし、かっこよくて、すごく面白い。これはいつたいたいなんなんだ」

人間的で温かみのある表現に一瞬で魅了され、以来いろいろな人のジャズを聴くようになり「自分の音で自分の表現に出逢いたい」と思った。

### 自己表現がしたい

興味をもったことはなんでもとことん追究し、自分の足で求め、目と耳で確かめ、つかんだ感覚を音楽に変えて自己表現する。山中千尋はそんな女性だ。

「一般的に自己表現が苦手な日本人は多いと思うが。」「そうかしら：でも、その分私は失敗もありました。リスクもあるけれど、やらざるを得ない、やるしかない気持ち。恥ずかしいけれど、一度乗り越えると大丈夫ですから」そう話す目は、凛として前を向く。

「思い切って表現したいとき、とにかくやってみること。それが大事かな」

学生時代、様々なジャンルの音楽や楽器に触れた。高校時代は、大学生に交じりインドネシアのガムラン音楽のサークルに入った。クラシックは王道に限らずロシアやフランスものなども訪ね、大学時代は古楽器のチェンバロ





もやった。  
「どんなジャンルの音楽も基本的に地続き。私のバックグラウンドにある様々な音楽をジャズで表現したい」

エッセイ集「ジャズのある風景」(晶文社)には、山中の暮らすニューヨークの日常や音楽風景、旅先の話題から日本文学などが語られ、その話題は幅広い。アンテナを張り、興味あるものを全てを吸収し、尽きない魅力へと変えていく。

自身の意見は知的且つ軽妙な言葉に換え、ジャズ愛を披露する。「アメリカで生活しているので、性別や人種などにバイアスがかかって言いたいことも言えないというのは良くないと思っています」。軸のあるぶれない生き方もファンを惹きつけている。

——改めて、ジャズを通して伝えていきたいことは。

「音楽って社会の影響を直に受けるもの。特にジャズは歴史や社会思想に色濃く関わるので、私も色々なことに興味をもって、人と出会い、感じたこと

機会となる。

「ガーシュウインの曲に、トリオが違いうリズムを重ねていく。黄色に青を混ぜると緑色になるように、全く異なる音色が出てくる面白さです」

ジャズの魅力は、その時々でグルーブが変わり、毎回違うエネルギーを感じられることだ。「百聞は一見にしかず。めったにないトリオとオケを楽しんでほしい」

### 2018年も挑戦の年に

「オーケストラの作曲を二年後にひかえています。ニューヨークのリンカーン・センターで、今年25周年の

とを音楽で表現していきたい。言葉だけではこぼれてしまう部分を音で表現したいのです」

世界の情報を瞬時にして入手できる現代にあって、「ジャズもテクノロジーに化しています。一方で、反知性主義の流れからプリミティブでシンプルな音楽に徹する人もいる」

そんな時代の中で、一貫して自身の感性に合致するものを追い求める。「やっぱり自分が面白いと思つたもの、楽しく興味あるものを受身でなく、自分からアクションを起こしていきたいですね」

次の瞬間、どうなっているかわからない現代、山中はいつでも走り出せる準備ができています。

### 注目の高崎元旦コンサート

2018年の高崎元旦コンサートに満を持して山中が登場する。指揮は自ら鍵盤奏者でもあり作曲や編曲もする今をときめく若き鈴木優人。管弦楽はもちろん群馬交響楽団。対する山中はトリオで挑む。メインで取り組むのは、米国の作曲家ジョージ・ガーシュウインの「ラブソディ・イン・ブルー」だ。

——ぜひ聴きたいところは。

「ガーシュウインは歴史の浅い米国の中で古典と言える作曲家です。『ラブソディ』は、打楽器や管楽器をふんだんに使い、ニューヨークの雑踏を感じさせる、ジャズの要素を含む面白い

DIVAジャズオーケストラの客演もあります。挑戦したいことがたくさんあって……と自分の思いを巡らせる。

「ソロピアノも録音したいし、ビッグバンドの曲も書きたい。映像音楽も手掛けてみたいです。音楽によって映像の見え方が変わるの面白くて。日常を題材に前衛的な映像を撮ったりしていますよ」と興味は尽きない。

次著の出版も決まっております、旅のエッセイ集になる予定だ。小柄な体にエネルギーを秘め、対象をひとつずつ昇華させていく。それでも一番は「音楽づくり時間にエネルギーを注げるような生活にしたい」と話す。

い曲。ガーシュウイン自身、弾く度にアドリブを加えていた」まさに予定調和のありえない曲は、新年の幕開けにふさわしい。

さて、ジャズ入門者は、この「アドリブ」について、改めて知りたいところ。「全ての音楽はコード(和音)に書きだすことができます。その骨組みに演奏者が好きなように肉付けしていくのがアドリブ。その場で突発的にアレンジしていきます。つまり即興ですから、聴いている人は次に何が起るのか分からない、知らない土地を旅しているかのようです。お互いの会話のようなやりとりで、新しいものを形作る感覚ですね」

どんな曲になるかは、演奏者にとっても未知数だ。

更に今回は、オーケストラにトリオを重ねるといって、めったに味わえない



### 高崎への再訪

——コンサートで何度も訪れている高崎について。

「自然と文化が豊かな都市、東京へのアクセスもいいし、羨ましいですね。実は、高崎在住の芥川賞作家の糸山秋子さんのご自宅に遊びに行かせてもらったこともあるのですよ」と笑みをこぼす。

——何度も共演を重ねている群馬交響楽団については。

「バンド仲間のように気心知れていて、毎回一緒に音楽を作っていく楽しさがあります。同期や先輩も多いですし。群響を特等席で聞けることも楽しみだという。」

「新年の幕開けにコンサートができるのは本当に光栄なこと。今はアプリでどんな音楽も聴ける時代ですが、やはり生のライブが一番。楽しいコンサートにしたいと思っているので、会場でお会いできるのを楽しみにしています」と締めくくった。

インタビュが終わる頃、外はすっかり夕刻の帳が下り、窓には都会の夜景が広がっていた。

賑やかな街の雑踏ときらびやかなネオン。そこが世界のどこであれ、山中千尋は自身の感覚を頼りに、自身の足で歩いている。しっかりと地に足をつけて。

新しい年が始まる。山中千尋はどんな音楽で我々を魅了してくれるのか、自身の耳で確かめてみたい。



ジャズとひとくちに言っても色々な曲があり、人によって違う曲になっていくのが面白いですね

### 高崎元旦コンサート2018

- 【日時】2018年1月1日(月・祝) 13:30開演
- 【会場】群馬音楽センター
- 【出演】群馬交響楽団、鈴木優人(指揮)、山中千尋(ピアノ) 須川崇志(ベース)、桃井裕範(ドラムス)
- 【演目】J.シュトラウスII/喜歌劇《こうもり》序曲  
ロッシーニ/歌劇《ウィリアム・テル》序曲  
バーンスタイン/《キャンディード》序曲  
ガーシュウイン/ラブソディ・イン・ブルー、他
- 【料金】全席指定 5,000円(友の会4,700円)、お土産付き
- 【お問合せ】群馬音楽センター 027-322-4527

### 2018・ツアー情報

2018年も山中千尋から目が離せない! 2月にアジア、春と夏にヨーロッパツアーを開催。日本では全国10ヶ所、イスラエルでもツアーが行われる予定だ。現在、新譜発表のため早朝4時~朝8時までピアノに向かい、作曲活動に動んでいる。限られた時間、締め切りがエネルギー源に。今回はクラシックの曲をジャズアレンジする意欲作だ。  
公式HP  
<http://www.chihiroyamanaka.com/index.html>

### Chihiro's Off-time

- 休日とはどんな風に過ごしていますか?  
「時間があるとジャズライブに行ったり、クラシックコンサートにもふらりと出掛けたりします。ホールが大好き。リラックスできますね」  
「移動時間はよく本を読んでいます。神保町の本屋さんがお気に入りです」  
「散歩も好きで、一日一万歩は歩くようにしています。ジムにも行きますよ」

- 好きな食べ物はなんですか?  
「すいか、とうもろこし、お米。お寿司は自分で握ります。職人さんの手元をじっと見て(笑)。なんでも自分でやってみたくて。最近ワインにもはまっています」





# 七十年前、新しい高崎をめざした 高崎観光協会の創設

**白衣大観音建立と  
幻の東京オリンピック  
全国に先駆け  
海外からの誘客をねらう**

昭和十一年（一九三六）十月、白衣大観音が完成し、高崎は観光への目を大きく開いた。その年の七月、次期オリンピック開催地がアジア初となる東京に決定しており、大観音建立直後の十一月に、白衣大観音と東京オリンピ



▲観光客でにぎわう観音山(昭和30年)

伝、土産品販売、地場産業振興を目的としたもので屋上にはネオンサインが設置された。

会館には常設陳列ケース、展示会場、商談室、会議室、舞台付きの大ホールが設けられ、まさに今で言う市民会館、コンベンションセンターだった。小島市長は館長として横浜税関から英語に堪能な人材を招き、世界四十カ国の主要都市の商工業団体など二百余りに開館案内を送って営業展開した。館長のコネクションもあり、ヨーロッパ、北南米の商社から多くのバイヤーが訪れた。一カ月の来館者は一万人を超え、商談が続々と成立した。

観光貿易館は、公民館的な役割も果たし、実業界だけではなく、市民、団体等にも幅広く使われ、昭和三十三年四月には、音楽センター建設促進委員会事務局が置かれた。その音楽センターが昭和三十六年に開館すると、座をゆずるかのように観光貿易館は幕を閉じる。

**博覧会の先駆け、  
五十万人を集めた  
「新日本高崎子ども博覧会」**

高崎線の電化完成と平和を記念し、昭和二十七年四月一日から五月二十日まで「新日本高崎子ども博覧会」が観音山一帯を会場に開催され、高崎市における戦後初めての大イベントとなった。高崎市の年間予算が二億、三億円の

ツクの外国人観光客の誘致をめざし、高崎観光協会が高崎商工会議所に設立された。

観音山の頂きに立つ当時世界最大の観音像は、全世界に報道された。ベルギー赤十字社から白衣大観音を紹介したいと問い合わせられたほどだった。

日中戦争で東京オリンピックの開催は中止されたが、白衣大観音を中心に高崎の観光事業は急速に発展し、白衣大観音の観光客は年間八十五万人に達した。高崎のデザイナーの先駆者、吉永得像氏の描いた白衣観音像を高崎の観光ポスター第一号に選定し、全国キャンペーンを展開した。観音ようかん、観音せんべい、観音絵はがきなどが誕生し、全国土産となった。

この時代に高崎に外国人観光客を誘致しようとしたことは、突飛な考えと思われるかもしれないが、当時の高崎駅は東京から避暑地軽井沢へ乗り換える外国人が多く、外国人観光客の姿は珍しくなかった。高崎駅には外国人や富裕層向けの上等な待合室が設けられ

時代に、四千万円の総事業費で計画された。（現在なら二十億円にも相当する予算）子ども博の収益で観音山開発を進めるねらいがあった。

動物園や遊園地、アメリカ館、テレビジョン館などが建設され、高さ十五mの飛行塔や象などが人気で、県内を始め近隣の小中学校へ宣伝活動を周到に行い、入場者は五十万人となった。博覧会の終了後、一部の施設は撤去されずに残され観音山遊園地として運営され、昭和三十七年にフェアリーランド、昭和四十四年に流水プールの「カッパピア」となった。



▲観光貿易館で開催されたファッションショー

**観光協会が  
観音山頂まで道路を作る**

昭和二十八年に観光協会の事務所が市役所から貿易会館に移転し、会員

ていた時期もあった。外国人観光客へのおもてなしは、鉄道拠点として早くから考えられていたようだ。

**戦後いち早く  
「観光都市高崎」をめざして  
観光協会を復活**

昭和二十三年（一九四八）に小島弘一市長の呼びかけで、県内各市に先駆け、九蔵町の高崎商工会議所に、高崎観光協会が再建された。観音山の整備だけではなく、県内の景勝地、温泉地と結ぶ観光都市高崎をめざした。高崎線の電化が進められ、東京・高崎間の所要時間短縮により、高崎は交通拠点としての飛躍を確信していた。

**白衣大観音が  
日本三景、三大温泉に並ぶ**

昭和二十六年、観光都市高崎が大きく動き出した。幕開けは毎日新聞主催の「観光地百選」だった。読者のハガとしての真価を発揮する。

当時、観音山へ行く道路「羽衣線」は清水寺下までしか通じておらず、バスもここが終点で、観光客は白衣大観音まで清水寺の石段を歩いて登り、往復には4時間かかった。市に十分な予算が無く観音山の開発は、ほとんど手が付けられていなかったのだ。そこで、観光協会が副会長斉藤忠三郎氏の個人保証で事業費を借り、山頂まで羽衣線を延長するとともに山頂広場も造成した。さらに観光客の増加で、羽衣線の渋滞が激しくなったので、山頂駐車場を拡張し、護国神社南側から山頂に通じる迂回線を建設した。観光協会は、道路まで作っていたのだ。

**碓氷郡八幡村、豊岡村との  
合併で「だるま」観光に着手**

高崎市は昭和三十年に碓氷郡八幡村、豊岡村などと合併し市域を広げた。豊岡にだるま、八幡に少林山達磨寺があり、「これを世に出そう」と高崎観光協会が総力をあげて東京での宣伝に打って出た。

昭和三十一年秋、池袋の西武デパートで高崎の観光物産展を全国に先駆け開催した。水原徳言氏が会場をデザインし高い評価を受け、デパート業界で高崎が評判となった。

キ投票で全国の人気観光地を選び、紙上で順位を発表して話題となったようだ。なんと白衣大観音は、日本三景（松島・天の橋立・宮島）、日本三大温泉（登別・熱海・別府）に次ぐ堂々7位にランクインされ全国に名を馳せることになった。

これには裏話があつて、高崎市は白衣大観音を百選に入れようと、ハガキ5万枚を買い込み、職員、商工会議所、区長会に配って投票に協力してもらった。莫大な組織票を投じて反則技のようであるが、今の「ゆるキャラグランプリ」に熱を入れてイメージアップや情報発信に取組む自治体を見れば、当時の高崎市も必死に観光に取り組んでいたことがわかる。

**観光貿易館を拠点に  
高崎の海外戦略が本格展開**

昭和二十六年八月に宮元町（現在の南銀座通りの入り口）に観光貿易館がオープンする。高崎の輸出の振興と観光宣

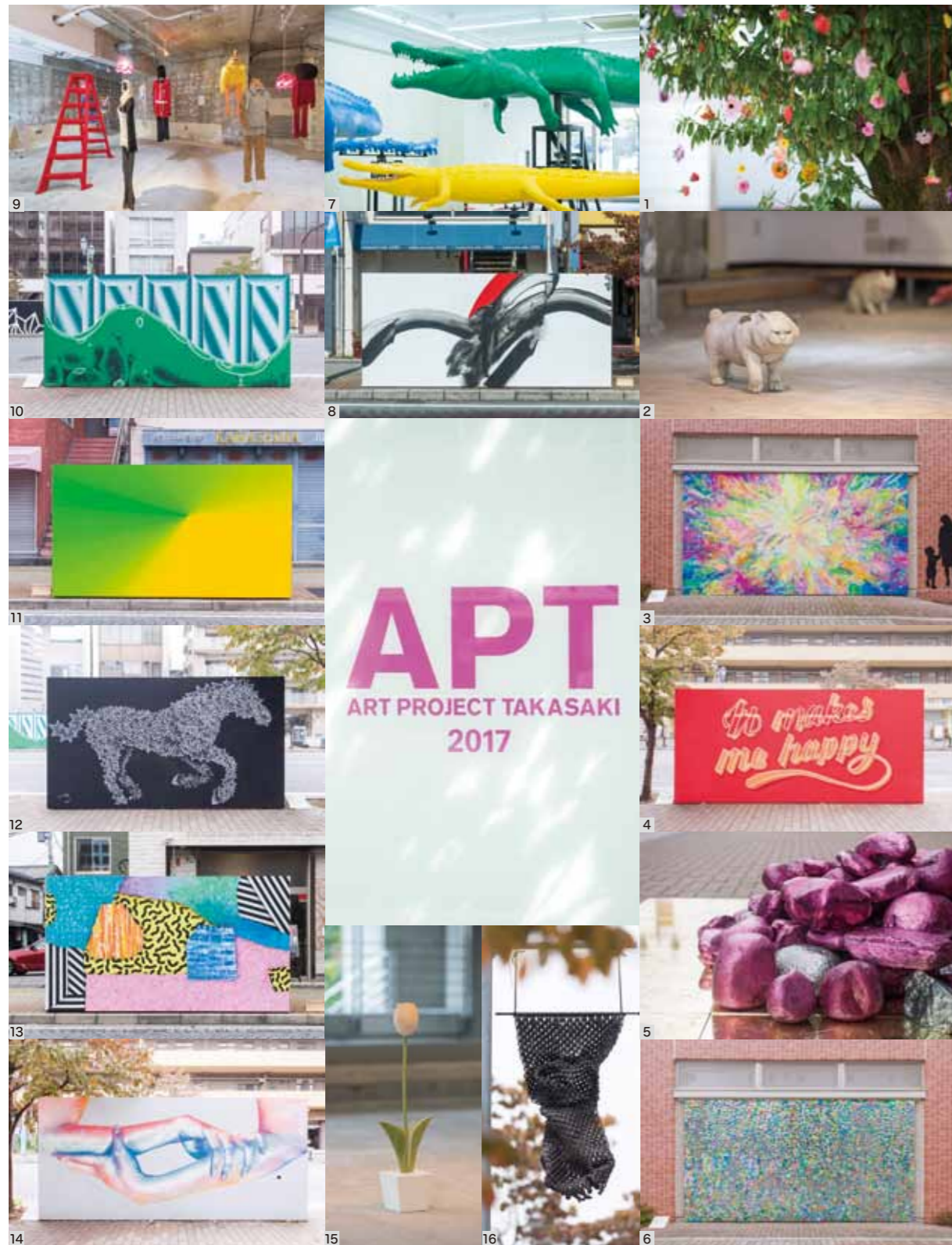
同年暮れには観光協会とだるま組合が正月の「少林山だるま市」をPRするため、バスで首都圏に乗り込んだ。埼玉では大宮などの駅前、東京では新宿、池袋、銀座、浅草で、だるま衣装の大パレードを行い、通行者に小型だるまとチラシを配った。別動隊がマスコミ全社を訪問し、大型だるまを贈呈して取材を願った。仮装パレードはテレビ放映と各紙の夕刊に写真入りで紹介されて大成功。少林山だるま市は、一気に十万人の人数となった。この宣伝活動は七年続けられ、高崎と少林山だるま市を全国に広めた。

そして、平成二十九年一月一、二日は「高崎だるま市」が高崎駅前通りを会場に開催されることになった。「高崎だるま市」は時代の流れとニーズに対応し、高崎観光協会と群馬県達磨製造協同組合が中心になり開催し、第一回目から全国最大二十万人が訪れた「だるま市」となった。

戦後、高崎の復興と成長を担ってきた先達たちは、二十一世紀に生きる私たちが今、考え、取組もうとしている事業やキャンペーンの大方のことを既に手がけていた。

七十年前に高崎の新しい都市づくりと観光をめざした当時の高崎人の構想力は、国際的な視野と独創的かつ巧みなセンスと実行力を持っていた。私たちもこのDNAを受け継いでさらに進化させていかなければならない。





- 参加アーティストと作品(一部)
- 1 鬼頭健吾
  - 2 三輪途道
  - 3 上原菜摘
  - 4 丸倫徳
  - 5 T A M
  - 6 タムラサトル
  - 7 サトウカスム
  - 8 井上純
  - 9 力石咲
  - 10 大山康太郎
  - 11 新保義暁
  - 12 バキバキ
  - 13 松岡洋太
  - 14 セネクト
  - 15 三輪 洗旗
  - 16 サトウカスム



去る10月7日-22日まで「アートプロジェクト高崎」が開催されました。集結したアーティストは国際的に活躍する作家から新進気鋭の若手まで15人。高崎市中心市街地の広場や街路樹、街灯、建物壁面などにアート作品を制作し、まちなかをアートに染め、街行く人や住人、通勤、通学の市民の目を楽しませました。見慣れた風景と現代アートが融合する、日常とはちょっと違うまちなかへ変身した16日間。制作された作品の一部を紹介すると共に、高崎市在住の3人のアーティストにイベントを振り返ってもらい、高崎とアートの可能性を探ります。

《 会場：慈光通り、大手前通り、レンガ通り、南銀座通り、さやもーる 》

# ART PROJECT TAKASAKI

APT/アートプロジェクト高崎2017

「現代アートの表現の場、創造の場としての都市」

～アトリエは街並みに、都市は美術館になる瞬間～

10月7日-22日 主催：高崎アートインキュベーション推進会議



連雀町交差点のウィンドウ作品 作：松岡洋太×新保義暁



「高崎あみぐるみ計画」(慈光通りの高チャリ・ポート) 作：力石 咲



「高崎あみぐるみ計画」(さやもーる)

歩道をアトリエにする  
15人のアーティストたち  
見慣れた風景に  
色を添えながら  
自由な創造に  
胸を躍らせて  
街はひとときの  
現代アート美術館。



子ども達も参加して車両にペインティング!



文化芸術の創造力や感性は、都市力を高め、市民に豊かな生活をもたらす力となる。このたび、上野三碑がユネスコの「世界の記憶」に登録されたが、三碑は古代においての「現代アート」ではなかったのか。古代高崎にも文化芸術の風が吹いていたと同時に、都市力の原動力だったのではないのか。現代の高崎が、新たな芸術の芽を育み、高崎型アートの新たな創造の場となることを期待したい— (高崎アートインキュベーション推進会議)

「現代アートは難しい」と言われることについて、どう捉えていますか。  
鬼頭 たぶんイメージの問題ではないかな。同時代を生きている作家が表現したもので、本来古いものの方が理解しにくいはずですが、古いものは知識として知っていることと作品を照らし合わせることで、ぼくの作品は抽象化されている部分もあるので理解というより、空間に入ったときに色や質感で感覚にくるものを目指したい。知識や自分の生活背景を持ちながら作品を見るので、誰でもある程度分かるように。ただ、皆、違う背景をもって違う解釈をするのがアートの面白いところ。だから「難しい」という人は、たぶん「恥ずかしい」ということだと思ってる。何か言ったり、理解しようとするときに「他の人はどう思っているのだから」とか。個々で当然違うのでそれではない。  
松岡 ぼくは、ただ見て「きれいだね」とか「面白いね」といいんじゃないかと。作品に



鬼頭 健吾/Kito Kengo  
1977年愛知県生まれ。2001年名古屋芸術大学絵画科洋画コース卒業後、2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科油画修士。2010年文化庁新進芸術家海外研修制度によりベルリン滞在。インスタレーションや立体、絵画など多様な表現方法を用いた作品を発表している。

り、ビル全体には描けないとか色の指定があったり、発展途上のカルチャー。欧米では空前的な壁面ブームで、日本でも今後増えるを期待しています。

「高崎はアーティストから見るとどんな都市でしょうか」  
鬼頭 日本のアートは、ほぼ東京一極集中ですね。例えばニューヨークやベルリンは、まちがコンパクトで作家が集まりやすい。その点、高崎もコンパクトで東京にも近くて便利。県全体を見ても現代美術を扱うところが多く、群馬はとがっていると思います。  
松岡 アートプロジェクトに関わるようになって、高崎に期待感がありますね。  
鬼頭 高崎にアーティストが集まるヴィレッジがあったら面白い。若い作家たちは東京近郊の端っこに住んでいるから、もう少しずつれてこっちに住んじゃえばアトリエも持てるし。まあ、変な人達がたくさん来ることになるかもしれないけど。(一同、笑)  
新保 アーティストが増えれば自然発生的に面白い、美術よりのイベントが生まれますね。  
鬼頭 ほかにも建築やデザイン、音楽とかクリエイティブなことが発生する。  
松岡 確かに都内だと制作する場所がないとか家賃が高いとか、悩みを抱えているクリエイターが多いな。  
鬼頭 ニューヨークを拠点に活動している友



Thanks you,  
The people of Takasaki!

## ART PROJECT TAKASAKI

KITO KENGO MATSUOKA YUTA SHIMBO YOSHIKI  
【鼎談】鬼頭 健吾 × 松岡 洋太 × 新保 義暁  
(JONJON GREEN)

# 高崎在住の3人のアーティストがAPT2017を振り返り 現代アートと高崎の可能性をさぐる

「APT2017を振り返ってのご感想をお願いします。」

松岡 今回、お散歩感覚で自由にアートを鑑賞できる面白い機会を作れたと感じました。鬼頭 見慣れた風景に作品を介入させたわけ、徐々にアートとして浸透していく感じが面白かったですね。

新保 作品制作を見せながら、街が美術館のように華やかになっていく感覚もよかったです。

松岡 「街が明るくなる。もつとやってほしい」「かっこいい」と毎日のように声を掛けられました。高崎の人はとても好意的で、アートを求めてくれると感じました。

鬼頭 美術館の中とは違ったコミュニケーションの場としてもよかったですね。

「作品の発想から制作まで、どんなアプローチがありましたか」  
新保 連雀町交差点の作品(P8)は、プラの中からはひとつ選び、松岡さんとコラボしました。「すこし動きがほしいね」とか話しながら展示しました。

松岡 車や人がすれ違う交差点だったので、ふたりの作品も交わろうと。回転するものやレイヤードで立体感を表現しました。鬼頭 ぼくは空間を作るインスタレーションなので、見慣れた空間に大きく違和感を与えようと試みました。井上病院前のマンシヨンのスペースでは、普段目にしない宝物のようならさらさら光る石ころを置いて、スズラン前のタブの木は象徴的



松岡 洋太/Matsuoka Yuta (JONJON GREEN)  
1978年高崎市生まれ。多摩美術大学美術学部卒業。大学卒業後単身アジア、ヨーロッパを放浪。2004年よりライブペインティングを軸に制作活動を開始。行き交う人々が街のすがたを見つめなおすだけでなく、驚きや感情をシェアするような制作を目指す。

な場所なので、花を使い、華やかさを強めて通り過ぎるとき、ついに留まってしまうイメージです。  
松岡 鬼頭君の石の作品は鑑賞者にいじられたりしたら、修復したのですか。  
鬼頭 元の位置に戻したくないです。盗まれるんじゃないかって声もあったけど、さすがにただの石ころを持つていく人はいなかった。(一同、笑)  
松岡 街なかでやるっていうのは必ずそういうことがあって、新保君の作品はガムをつけられたね(笑)。  
新保 ある程度のいたずらは想定していて楽しめました。行ったときには、もうガムは剥がされてしまったけど(笑)。  
松岡 慈光通りの仮想壁画も落書きぐらいあるかなあと。結果的に、あってもいいぐらいだった(笑)。  
新保 それがストリーートの醍醐味かな。(一同、笑)

「イベントを通してどんな収穫がありましたか」

何も感じなかったら、その作品に興味がないってことでもいい。でも美術館に行ってみようとか作品の意味や関連性とか、現代美術の文脈を知る機会が増えたら嬉しいですね。  
新保 ぼくは、身近にあるものを違った目線で見ることが制作の発端です。そこからもの見方が変わってくるような作品を作っていきたいですね。普段目にするものがちよつと変わる感覚が面白い。



新保 義暁/Shimbo Yoshiaki  
1980年群馬県生まれ。視覚から得る印象を元としたコミュニケーションのアシストをペインティング、デジタルグラフィックツールの技術を互いに止揚しながら使い、その場に即したアイデアを展開、制作している。

鬼頭 花の作品は、頭で描いていたものと良い意味でずれがあり、次へのアイデアが生まれました。  
松岡 ぼくは県外から数名アーティストを呼んだので相談に乗ったり、自分の作品への意見を聞いて刺激があり、新しい表現を求めたいという気持ちになりました。  
新保 ぼくも新しいことをやって、別の路線が見えました。限られた中での制作の仕方とか収穫でした。  
松岡 期間限定のアートでしたが、例えば鬼頭君の花は雪が降ったり、風が吹いたり、変化を楽しめる。僕の作品は塗料の色落ちなどありますが、出来る限り長時間設置できたら嬉しい。  
鬼頭 僕は利他的なほうがいいかな。インスタレーションだから、必ず作っちゃ壊し、作っちゃ壊しを繰り返す。ある種、非日常な空間を作っているから。  
松岡 僕の活動の中心は壁画なので、悠久の作品を作りたい。ただ日本では法律の壁がある



人からも、こつちに引越してきたいから物件ないかと言われました。そこそこ売れている作家だと作品を作ってそれを東京や世界に供給すればいいので、住む場所は東京じゃなくてもいい。  
松岡 今回、街のひとつと同じ目線で話が出たことが、僕にとって大きな喜びでしたし、街のひとつにとっても面白い機会だったと思います。作家が生活して、制作しているところに出くわすというのはいいですね。  
鬼頭 新しくなる高崎のまちで、今後も新しい提案がきたら面白いかな。天気にも左右されたり、許可をとったり大変ですけど、外でやるというのは面白いと実感しました!

「本日はありがとうございました。」



クラシック・ギター界のホープが高崎で日本デビュー  
ショーン・シベ ギター・リサイタル



1992年エジンバラで、スコットランド人の父親と日本人の母親の間に生まれ、スコットランド王立音楽院で学んだショーン・シベは、英国の「BBC新世代演奏家」にギター奏者として初めて選ばれるなど躍進目覚ましいアーティスト。2017年夏に、初のソロアルバムをリリース。ギター界の新星が高崎で日本デビューします！貴重な本邦初ステージを是非、その耳でお確かめください。

2018年1月20日(土) 14:00開演  
会場/高崎シティギャラリー

Ⓜ ショーン・シベ(ギター)

Ⓜ ヴィラ=ロボス/5つの前奏曲 W.419、J.S.バッハ/リュート組曲第4番 BWV1006a  
武満徹編曲によるビートルズ作品 ほか

Ⓜ 全席指定2,000円(友の会1,800円 U25 1,000円)

春待つ季節の昼下がりには聴くヴィヴァルディの「四季」  
スロヴァキア室内オーケストラ



多くの名演奏家を輩出する中欧屈指の“弦の国”で1960年に創設されたスロヴァキア室内オーケストラ。スロヴァキア・フィルの元コンサートマスター、エヴァルト・ダネルが音楽監督を務め、世界ツアーや現代作品の初演等に取り組むなど旺盛に活動中。総勢15名の弦楽ハーモニーと名手のしなやかなテクニック、受け継がれるDNAのなせる律動感をご堪能ください。

2018年2月9日(金) 14:00開演  
会場/高崎シティギャラリー

Ⓜ スロヴァキア室内オーケストラ

エヴァルト・ダネル(音楽監督・ヴァイオリン)

Ⓜ ヴィヴァルディ/協奏曲集「四季」、バルトーク/ルーマニア民俗舞曲  
グリーグ/ホルベアの時代より、プリテン/シンプル・シンフォニー

Ⓜ 全席指定6,000円(友の会5,500円 U25 3,000円)

今最も注目される実力派ジャズ・ピアニストの森田真奈美によるトリオライブ  
Manami Morita Trio guest 類家心平



森田真奈美はTV朝日系・報道ステーションのオープニング・テーマ曲「I am」を手掛けるなど、ジャズ・ピアニスト、コンポーザーとして人気を集めています。グローバルに活躍するザック・クロクサル(b)、工藤明(ds)とトリオを組み、若手No.1トランペッター類家心平を迎え、特別な一夜をお届けします。縦横無尽な即興演奏を得意とする森田のダイナミックな演奏にご注目ください。

2018年2月15日(木) 19:00開演  
会場/高崎シティギャラリー

Ⓜ 森田真奈美(ピアノ)、ザック・クロクサル(ベース)、工藤 明(ドラムス)  
類家心平(トランペット)

Ⓜ 全席指定 一般3,500円(友の会3,200円 U25 2,000円)

※U25料金は公演当日25歳以下が対象です。

「高崎元旦」史上最高にエキサイティングなプログラム！  
第28回 高崎元旦コンサート



2018年は、群馬交響楽団と豪華ゲストによるエキサイティングなステージでスタート！指揮は、多彩な音楽表現を駆使する新時代の旗手、鈴木優人。後半、群馬県出身でNY在住の世界的ジャズ・ピアニスト山中千尋がトリオで登場。ガーシュウインの名曲「ラプソディ・イン・ブルー」を演奏します。恒例のヨハン・シュトラウス作品に加え、生誕100年を迎えるバーンスタインの作品など、熱いプログラムにご期待ください！

2018年1月1日(月・祝) 13:30開演  
会場/群馬音楽センター

Ⓜ 鈴木優人(指揮)、山中千尋(ピアノ)、須川崇志(ベース)  
桃井裕範(ドラムス)、群馬交響楽団(管弦楽)

Ⓜ J.シュトラウスII/喜歌劇《こうもり》序曲、バーンスタイン/《キャンディード》序曲、ガーシュウイン/ラプソディ・イン・ブルー ほか

Ⓜ 全席指定 5,000円(友の会4,700円)、お土産付き

大友×群響が魅せる躍動のシンフォニー 館野泉による感動のコンチェルト  
平日午後のシンフォニー 群馬交響楽団演奏会



群響初となる「平日午後」のコンサート。指揮は群響音楽監督の大友直人が務めます。メインプログラムは全編を貫く躍動感が魅力のベートーヴェンの交響曲第7番。ソリストには「左手のピアニスト」館野泉を迎え、今年7月フィンランドでの80歳記念演奏会で絶賛された2つの協奏曲を演奏します。中でも《泉のコンセール》は日本初演奏。夜間は外出しづらい方も是非、この機会にお出かけください。

2018年2月8日(木) 13:30開演  
会場/群馬音楽センター

Ⓜ 大友直人(指揮)、館野泉(ピアノ)、群馬交響楽団(管弦楽)

Ⓜ ベートーヴェン/交響曲第7番イ長調作品92

光永浩一郎/泉のコンセール(日本初演)、エスカンデ/アンティポダス

Ⓜ S席4,000円(友の会3,700円)、A席3,000円(友の会2,700円)  
B席2,000円(友の会1,800円)

12/8(金)  
発売

チケットインフォメーション

窓口 ●8:30-17:15 年末年始(12/29~1/3)は休み

窓口	電話番号	定休日
群馬音楽センター	027-322-4527	月
高崎市文化会館	027-325-0681	月
高崎シティギャラリー	027-328-5050	なし
箕郷文化会館	027-371-7211	月・火
新町文化ホール	0274-42-9133	月・火
榛名文化会館	027-374-5001	月・火
吉井文化会館	027-387-3211	月・火
高崎市倉沢支所(地域振興課)	027-378-4522	土・日・祝
高崎市群馬支所(地域振興課)	027-373-2604	土・日・祝

※電話予約は発売日翌日より受付いたします。  
※但し、群馬音楽センターは1/1(月・祝)は開館します。

インターネット

高崎財団インターネット チケットサービス(発売日は13:00から)  
http://takasaki-foundation.or.jp/syusaijigyou/

平成29年度 「高崎市文化事業 友の会」  
会員募集中!

会費

短期会員 1,000円  
\*10月1日以降新規入会の方。

継続会員 1,500円  
\*前年度のポイントを引き継ぎます。

有効期間

入会日から  
平成30年3月31日まで

主な会員特典内容

- チケットが特別料金で買える!
- チケットを優先して予約できる!
- お得な情報満載の会報「友の会便り」が届く!
- ためたポイントでチケットがもらえる!
- パスツアーに参加できる!

★詳しくは、高崎財団HPをご覧ください  
http://takasaki-foundation.or.jp/

★ツイッターでも情報発信中 @bds04884



# MEET THE GSO

GUNMA SYMPHONY ORCHESTRA

群馬交響楽団  
楽団員インタビュー

Vol.3

脈々とつながれる70年の群響サウンド  
それを奏でる個性あふれるメンバーたち  
楽団員を知れば群響がもっと好きになる

群馬交響楽団 コントラバス首席奏者

## 市川 哲郎

いちかわ てつろう



オーケストラ最大の弦楽器  
その低音でオケを支え、リードする

### 🎵 コントラバスの魅力と役割

高さ約2メートル、重さ約10キロ。その胴体から放たれる低音はオケ全体を支え、リードもする要の存在だ。

「全体で長い音を出すときは、他の楽器が音を乗せやすいように早めに入ったり、同時に出すときは鋭く入って引き締めたり。速度や強弱を目線に合図することもあります」

ステージ上では奏者同士の熱いやりが練り広げられている。思いが共鳴しあったとき、市川さんにとって「しっくりくる」至極の演奏となる。

### 🎵 リラックスと程よい緊張

群響入団12年目、その音楽観にも変化があった。「公演でお客さんが寝てしまうのは心地良いから。中高生の音楽教室で反抗期の子ども達が寝てしまっても気にならなくなった。ゆったりと音楽に身を委ねてほしい」と語る。そんな市川さんが演奏前に心がけていることは「大笑いしないこと」と「コーヒーを飲まないこと」だ。笑いほこ拍数を上げてしまい、神経過敏にするカフェインは、ピアノシモッを出す指先に影響が出る。全体を見渡すコントラバスには程よい緊張感が欠かせない。休日にもつばら愛犬ワイマラナーとの散歩を楽しむ市川さん。緊張と弛緩を自在に行き来し、公演に備える。

「十人十色の音がひとつとところに集まる感覚、そんな心地よい演奏を増やしていきたいですね」

### Tetsuro Ichikawa

- 出身 神奈川県 ■入団 2006年1月
- 最近の印象に残っているコンサート  
2016年1月の群響定期。NYフィルの音楽監督アラン・ギルバートと久しぶりの共演。日本人にないリズム感と妥協のない指揮に感銘した。
- 好きなアーティスト  
PerfumeからプログレッシブメタルのDream Theaterまで幅広い。
- 好きな作曲家  
ストラヴィンスキー(「春の祭典」「火の鳥」等)

次回はヴィオラ首席奏者・渡邊信一郎さんを予定しています。お楽しみに！